

認知心理学 <small>～2017</small>			科目コード	FH3510・ FH3530
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
4	R or SR (講義)	2 年以上	柴田 理瑛	



※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。

※2018年度以降に入学した方は、p. 271 「知覚・認知心理学」(科目コード：FH3560、2単位、履修方法：RorSR)を参照してください。

※本科目を履修登録した方も、下記記載の「■レポート課題」「■アドバイス」以外の項目は、p. 271 「知覚・認知心理学」(科目コード：FH3560)を参照してください。

※この科目は2022年度まで開講します。レポート提出、スクーリング受講、科目修了試験受験は2023年3月まで可能です(新規履修登録はできません)。

※2018年度のスクーリングより、スクーリング単位1単位(8コマ)に変更されました。

※科目コード FH3510 2017年までのスクーリング受講者(スクーリング単位2単位)
FH3530 上記以外の方(スクーリング単位1単位)

■レポート課題

1 単位め	「TFUオンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	「TFUオンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
3 単位め	注意とカクテルパーティ効果について説明し、代表的な実験結果に触れながら初期選択説と後期選択説の違いを説明すること。
4 単位め	期待効用理論とその限界について述べ、プロスペクト理論とフレーミング効果について具体例を挙げながら考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

教科書では、図表がたくさん使用されています。文章だけではなく、図表を通した研究内容や実験結果の理解にも努めましょう。論述式レポートをまとめる際、一文が長いと思ったら、一度句点(。)で文章を切って下さい。それから、むやみに改行しないでください。改行のポイントは後述のとおりです。本文における全角文字は明朝体、半角の英数字はCenturyでお願いします。これらの基本的事項が守られていない場合には、内容が優れていたとしても再提出にします。

3・4単位目のレポートでは、特に教科書の4章、12章がレポート課題に関係します。また、いくつかの専門用語について説明が求められています。たくさんの情報がある一定量にまとめて分かりやすく表現することは、心理学を学ぶ上で非常に重要なスキルです。そのため、2単位目のレポートを評価するときは、指定字数(1000字以上2000字以内)で、課題にそった記述が、簡潔かつ適切になされているかについて

て評価します。

1・2単位め
アドバイス

教科書をよく読み、「TFUオンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

3単位め
アドバイス

まずは、第4章1節を読み、認知心理学で言う注意についてまとめてください。書き出しは、「認知心理学で言う注意とは～のことである」が良いでしょう。さらに、「今回のレポートでは注意のいくつかの機能のうち、情報の選択に関する機能について考察する」という文言を入れてください。次に、段落を変えて、第4章2節のカクテルパーティ効果の説明を始めてください。書き出しは「カクテルパーティ効果とは～のことである」という表現が良いと思います。カクテルパーティ効果の日常における具体例が挿入してあると尚良いです。次に、段落を変えて、チェリーの実験やブロードベントの実験についてまとめましょう。次に、段落を変えて、モレイの実験についてまとめましょう。最後に、段落を変えて、初期選択説と後期選択説についてまとめ、違いを考察しましょう。

4単位め
アドバイス

まずは、第12章1節を読み、認知心理学で言う意思決定についてまとめてください。書き出しは、「認知心理学で言う意思決定とは～のことである」が良いでしょう。その後、いくつかの意思決定研究のアプローチについてまとめます。次に、段落を変えて、期待効用理論の説明と限界を述べます。期待効用理論の限界については、第12章1節の期待効用理論の侵犯の部分をまとめてください。次に、段落を変えて、第4章2節のプロスペクト理論の説明を始めてください。書き出しは「プロスペクト理論とは～のことである」という表現が良いと思います。次に、段落を変えて、フレーミング効果についてまとめましょう。プロスペクト理論とフレーミング効果の段落では、それぞれに関連する日常の具体例が挿入してあると良いです。最後に、段落を変えて、本レポートを通して分かったことをまとめましょう。